

日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
NO. 41	和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田

(1) 将来像 (ビジョン)

「足袋の行田か行田の足袋か」と謳われ、小説・ドラマ『陸王』の舞台にもなった行田市は、最盛期である昭和10年代には年間約8,500万足の足袋を生産した日本一の足袋産地であり、現在も市街地には、足袋産業の発展の象徴である多種多様な足袋蔵が現存している。

また、埼玉県名発祥の地である本市には、東日本最大の規模を誇る特別史跡埼玉古墳群や、小説・映画「のぼうの城」で知られる忍城跡、城下町の総鎮守である八幡神社など、古代から現代に至るまで全国に誇れる多くの地域資源が存在する。

こうした足袋蔵をはじめとした多彩な地域資源を活かした観光まちづくりを進めるため、これまで、各種基礎調査やマーケティングリサーチを実施し、これらに基づいた情報発信や人材育成など様々な取組みを進めたことで、市を訪れる観光客は増加傾向にあったが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で減少している。

今後は、感染症収束を見据え、国内外への情報発信を再度強化するとともに、中心市街地の歴史的景観を活かした景観整備や足袋蔵等の公開・活用を推進し、回遊ルートの強化を図る。また、DMO等との連携による新商品開発や体験型観光開発に取り組むことで、地域としての底上げを図る。これらに加えて、近隣の他の日本遺産認定地域との連携による広域型観光を推進し、さらなる人の流れを呼び寄せて行く。

これらの取組みにより、足袋蔵をはじめとした先人から受け継いだ”まちの財産を守り、まちの文化を育むこと”に誇りを持てるよう、市民と行政が対等な立場で協働して創意工夫による魅力溢れるまちづくりを進めることで、未来の市民へと夢をつなぎ、活力と希望に満ちた「足袋と足袋蔵のまち行田」を目指す。

(2) 地域活性化計画における目標

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①-A：日本遺産ストーリーを体験した来訪者数
(旧指標：ブース及びガイドダンスセンターへの来場者数)

年度	実績			目標		
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
数値	12,888	18,200	(未算出)			
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	郷土博物館と日本遺産ガイドダンスセンターをはじめ、公開している構成文化財への来訪者数の合計を目標値とする。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①－B：日本遺産ストーリーについて理解を深めた来訪者数 (旧指標：行田市日本遺産ガイダンスセンターに訪れる市民の数)						
年度	実績			目標		
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
数値	540	1,137	(未算出)			
目標値の設定の考え方 及び把握方法	日本遺産について理解を深める事の出来る日本遺産見学・体験ツアー参加者数及び足袋づくり体験者数を目標値とする。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：地域住民が日本遺産ストーリーを誇りに思う割合 (旧指標：市民意識調査の「足袋の文化」や「足袋蔵」に魅力や誇りを感じる割合の上昇率)						
年度	実績			目標		
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
数値	95	89	(未算出)			
目標値の設定の考え方 及び把握方法	意識調査の「足袋の文化」や「足袋蔵」に魅力や誇りを感じる市民の割合を目標値とする。					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：日本遺産構成資産での経済活動 (旧指標：観光ガイドの利用回数)						
年度	実績			目標		
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
数値	24	66	(未算出)			
目標値の設定の考え方 及び把握方法	アンケートより算出する消費単価に日本遺産見学・体験ツアー参加者数を乗じて算出する。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：公開活用がされた構成文化財の割合 (旧指標：新たな活用が行われた足袋蔵等歴史的建造物の件数)						
年度	実績			目標		
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
数値	3	5	(未算出)			
目標値の設定の考え方 及び把握方法	全構成資産に占める一時的な公開も含めた公開・活用がされた構成文化財の割合を目標値とする。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤-A：市内の観光入込客数						
年度	実績			目標		
	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
数値	45万人	(未算出)	(未算出)			
目標値の設定の考え方及び把握方法		主要観光施設入込客数を目標値とする。				

(3) 地域活性化のための取組の概要	
<p>①足袋蔵等の活用推進(年1件の新規公開・活用実現)</p> <p>②体験型コンテンツ整備等による構成資産の観光商品化推進(年1件の商品創出実現)</p> <p>③足袋と足袋蔵の魅力を、国内外に発信する(月1件ペースでの新規情報発信実施)</p> <p>④足袋蔵のある中心市街地の魅力を創出する(月1件ペースでの関連イベント等開催)</p> <p>⑤足袋産業関連の近代化遺産の調査を進める(年1件調査実施)</p> <p>⑥足袋産業の活性化を図る</p> <p>⑦地域の食文化等を活用して地域の魅力を発信する</p> <p>⑧行田市日本遺産推進協議会による日本遺産事業の推進</p> <p>⑨インバウンドサービスの更なる充実を図る。</p>	
(4) 実施体制	
<p>行田市日本遺産推進協議会が中心となって事業を統括し、委員・オブザーバーの所属団体が適宜に事業を実施する。</p> <p>行田市日本遺産推進協議会</p> <p>【委員】</p> <p>行田市 市長</p> <p>行田商工会議所 会頭</p> <p>南河原商工会 副会長</p> <p>行田おもてなし観光局 事務局長</p> <p>行田市商店会連合会 会長</p> <p>行田市自治会連合会 忍地区連合会長</p> <p>行田市文化財保護審議会 会長</p> <p>東日本旅客鉄道株式会社高崎支社 営業部販売促進課長</p> <p>秩父鉄道株式会社 執行役員企画部長</p> <p>株式会社武蔵野銀行 行田支店支店長</p> <p>埼玉県さきたま史跡の博物館 館長</p> <p>埼玉県利根地域振興センター 所長</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>行田商工会議所青年部 会長</p> <p>行田青年会議所 理事長</p> <p>ものづくり大学 教授</p> <p>NPO 法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク 代表理事</p>	

NPO 法人魅力創造倶楽部 理事 NPO 法人行田観光物産会 代表理事
[人材育成・確保の方針] ・市内小中高等学校で日本遺産教育を継続的に実施して将来の担い手を育成する。 ・ものづくり大学や市民大学と連携し、日本遺産構成資産保存・活用の人材を育成・確保して行く。
(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走 当面5年間は、可能な限り補助金等を活用し、ふるさと納税の寄付金、市費も充当して、DMO等と連携して構成資産見学・体験ツアー等の観光商品化を進め、“稼げる”体制構築に努める。
(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組
①構成資産の詳細調査及び意向調査の実施 ②史跡整備・活用の推進 ③足袋蔵等の活用の推進（再掲） ④体験型コンテンツの整備等による足袋蔵等の観光商品化の推進（再掲） ⑤構成資産の魅力を、国内外に発信する ⑥活用で得た資金を構成資産の保存・整備に再投資して構成資産の魅力を向上する
(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備			
(事業番号1-A)			
事業名	日本遺産推進協議会の体制整備		
概要	計画の円滑な実施のため、関係者間の調整を行う組織と事業実施組織の整備・明確化		
	取組名	取組内容	実施主体
①	組織の一本化とワーキング・グループの設置	委員とオブザーバーに分かれている組織を、委員に一本化し、その下にワーキング・グループを設置する。委員のメンバーの中の数人と事務局でワーキング・グループを組織する。	行田市日本遺産推進協議会
②	協議会とワーキング・グループとの役割分担の明確化	協議会が全体の統括を行い、個別の事業はワーキング・グループが行う。	行田市日本遺産推進協議会
③	ワーキング・グループによる事業報告の審議	協議会の会議の際に、ワーキング・グループの行っている事業について報告を受け、これを審議する。	行田市日本遺産推進協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年	組織体制への行政以外の参加者数		19
2021年			18
2022年			17
2023年	組織体制への行政以外の参加者数		18
2024年	組織体制への行政以外の参加者数		18
2025年	組織体制への行政以外の参加者数		18

(事業番号 1-B)

事業名	ワーキング・グループの設置		
概要	計画の円滑な実施のため、事業実施組織を編成する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	ワーキング・グループの設置	日本遺産推進協議会の下にワーキング・グループを設置する。協議会委員のメンバーの中の数人と事務局でワーキング・グループを組織する。	ワーキング・グループ
②	協議会とワーキング・グループとの役割分担の明確化	日本遺産推進協議会が全体の統括を行い、個別の事業はワーキング・グループが行う。	ワーキング・グループ
③	ワーキング・グループの定期的な連絡・調整会議の開催	ワーキング・グループ・メンバーが連携・協力するために、定期的に連絡・調整会議を開催する。	ワーキング・グループ
④	ワーキング・グループによる事業報告	協議会の会議の際に、ワーキング・グループが事業の進捗状況や成果・結果を報告し、協議会がこれを審議する。	ワーキング・グループ
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年	ワーキング・グループ中心で実施した事業数		0
2021年			0
2022年			0
2023年	ワーキング・グループ中心で実施した事業数		2
2024年	ワーキング・グループ中心で実施した事業数		3
2025年	ワーキング・グループ中心で実施した事業数		4

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号2-A)			
事業名	文化財保存活用地域計画の策定		
概要	文化財保存活用地域計画に日本遺産を明確に位置づける。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化財保存活用地域計画への日本遺産の位置づけ	文化財保存活用地域計画を策定し、誌の中に日本遺産を明確に位置づける。	文化財掘尊活用地域計画協議会
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年			
2021年	文化財保存活用地域計画アンケート回収数		622/3,000
2022年	文化財保存活用地域計画策定のワークショップ実施回数		3
2023年	文化財保存活用地域計画策定委員会の開催回数		2
2024年	文化財保存活用地域計画の認定		認定達成
2025年			

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-A)			
事業名	足袋蔵コーディネーターの会（仮称）設立		
概要	足袋蔵コーディネーターを育成し、組織化して活動を展開する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	足袋蔵コーディネーターの育成	足袋蔵コーディネーター養成講座を開講する。	文化財保護課
②	足袋蔵コーディネーターの組織化	足袋蔵コーディネーターの会（仮称）の立ち上げ、会の活動体制を整備する。	文化財保護課
③	足袋蔵コーディネーターの活動実施	足袋蔵等保存・整備・活用支援活動を実施する。	足袋蔵コーディネーターの会（仮称）
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年			5・7
2021年	足袋蔵コーディネーターの活動回数		・10
2022年			8
2023年	足袋蔵コーディネーター養成講座の講座回数		10
2024年	足袋蔵コーディネーターの活動回数		11
2025年	足袋蔵コーディネーターの活動回数		11

(事業番号 3-B)

事業名	観光ガイドの育成		
概要	日本遺産のストーリー、構成資産について説明できるガイドを育成し、組織的に活動を展開する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産観光ガイドの育成	観光庁の補助金等を利用して日本遺産観光ガイドの育成を行う。	おもてなし観光局・文化財保護課
②	ガイドツアーの開催	構成資産を訪ね歩くガイド・ツアーを開催する。	おもてなし観光局
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年			
2021年	ガイド・ツアーの開催回数		
2022年			
2023年			2
2024年	ガイド・ツアーの開催回数		3
2025年	ガイド・ツアーの開催回数		4

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	足袋蔵等の公開・活用推進		
概要	「ふるさとづくり事業」等の補助金を活用して足袋蔵等の公開を進める		
	取組名	取組内容	実施主体
①	「ふるさとづくり事業」による足袋蔵等の整備・公開・活用	「ふるさとづくり事業」のPR、足袋蔵等所有者への働きかけを行い、「ふるさとづくり事業」による足袋蔵の整備・公開・活用を進める	企画政策課・文化財保護課
②	その他補助金を活用した足袋蔵等の整備・公開・活用	観光庁等の補助金を活用し、「足袋蔵コーディネーター」等にもお手伝いいただいて足袋蔵の整備・公開・活用を進める	文化財保護課
③	「ふるさとづくり事業」による市街地の景観整備	事業のPR及び市街地の建物所有者等へ働きかけを行い、ふるさとづくり事業補助金を活用した歴史的景観整備を促進する	企画政策課・都市計画課
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年	新たに活用となった足袋蔵等の件数		2・1
2021年			・1
2022年			1
2023年	新たに活用となった足袋蔵等の件数		1
2024年	新たに活用となった足袋蔵等の件数		1
2025年	新たに活用となった足袋蔵等の件数		1

(事業番号4-B)

事業名	足袋蔵等の説明板の整備		
概要	構成資産の説明板にQRコードを設置して、多言語化の充実、より詳細な説明の提供、内部非公開の足袋蔵等を映像で公開を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	説明板へのQRコードの設置	観光庁の補助金を活用して構成資産の説明板にQRコードを設置して、多言語化の充実、より詳細な説明の提供、内部非公開の足袋蔵等を映像で公開を行う。	文化財保護課
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年	QRコードが整備された説明板の数		
2021年			
2022年			
2023年	QRコードが整備された説明板の数		35
2024年			
2025年			

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	体験型コンテンツの整備・観光商品化		
概要	日本遺産のストーリーと結びつく体験型コンテンツや、構成資産の中で行われるその他の体験型コンテンツを整備・拡充すると共に、観光商品として体系化する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	体験型コンテンツを絡めたモデル・コースの設定	体験型コンテンツを絡めたモデル・コースを設定し、モニター・ツアーを行う。	おもてなし観光局・文化財保護課・商工観光課
②	体験型コンテンツを絡めたツアーの開催（販売）	体験型コンテンツを絡めたツアーを開催（販売）する。	おもてなし観光局
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年	(事業構想期間)		
2021年			
2022年			
2023年	体験型コンテンツの整備数	3	
2024年	モデル・コースの設定数	3	
2025年	ツアーの開催数	2	

(7) - 6 普及啓発

(事業番号 6 - A)

事業名		日本遺産巡回展示	
概要		市内小中学校を対象に、1校につき2週間程度、足袋関連資料や写真パネル等の展示を行い、日本遺産に対する児童・生徒の理解を深める	
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産巡回展示の実施	市内小中学校を対象に、1校につき2週間程度、足袋関連資料や写真パネル等の展示を行うと共に、地域の特性に合わせた内容(展示物)の追加を行う。児童や先生からのアンケート調査をもとに、改良を重ねていく。	文化財保護課・教育指導課
②	社会科の授業を通じた日本遺産足袋の学習(小学校3年生)	社会科副読本を通して日本遺産足袋について学習し、製造工程や足袋の歴史を学ぶ。特に、日本遺産として行田の足袋が位置づけられた点についてしっかり学習する。	教育指導課
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年			0
2021年	日本遺産巡回展示の実施校数		4
2022年			14
2023年	日本遺産巡回展示の実施校数		10
2024年	日本遺産巡回展示の実施校数		11
2025年	日本遺産巡回展示の実施校数		12

(事業番号6-B)

事業名	足袋検定の実施		
概要	行田の足袋や足袋産業の歴史などについての知識や、足袋産業の特徴とその理由について考えてもらう内容の検定等を実施することにより、普及啓発を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	足袋検定の実施	郷土博物館の来館者を対象に行田の足袋や足袋産業の歴史などについての知識や、足袋産業の特徴とその理由について考えてもらう内容の検定等を実施する。	郷土博物館
②	体験学習イベントと足袋検定の同時開催	郷土博物館の体験学習イベントにあわせて、足袋検定を同時開催する。また、他の催しでもPRを行うなどして参加を呼びかける。	郷土博物館
③	足袋検定のPR活動	来館者の目に留まりやすい館内掲示の工夫や、インターネット・SNS等を活用したさらなるPRを行い、足袋検定の認知度を高め、参加を促進する。	郷土博物館
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年			0
2021年	行田足袋の歴史に関心を持つ人数		0
2022年			
2023年		行田足袋の歴史に関心を持つ人数	2,000
2024年	行田足袋の歴史に関心を持つ人数		2,000
2025年	行田足袋の歴史に関心を持つ人数		2,000

(事業番号6-C)

事業名	構成資産を活用した普及事業の実施		
概要	郷土博物館が所蔵する構成資産について講座等で取り扱い、行田足袋の歴史や日本遺産ストーリーの普及啓発を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	古文書講座の実施	郷土博物館が所蔵する構成資産のうち、足袋産業関係の文書資料をテキストとして古文書読解の講座を実施する。	郷土博物館
②	足袋ラベル資料の活用	郷土博物館が所蔵する足袋ラベルの資料をデザイン化し体験学習教材としての活用を図る。	郷土博物館
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年			0
2021年	講座の参加者		0
2022年			
2023年		講座の参加者	30人
2024年	講座の参加者		30人
2025年	講座の参加者		30人

(事業番号6-D)

事業名	足袋をはいて博物館へ		
概要	郷土博物館の入館に際して足袋着用者に特典を設けるなど、足袋の着用を促進するキャンペーンを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	足袋を着用した入館者に対する記念品贈呈	足袋を着用した入館者に記念品を贈呈する。記念品は足袋の歴史や日本遺産に関するものを用意する。	郷土博物館
②	フォトスポットの設置	行田足袋をモチーフに取り入れた期間限定フォトスポットを郷土博物館内に設け、入館者に利用・発信してもらう。	郷土博物館
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年			0
2021年	行田足袋の歴史に関心を持つ人数		0
2022年			
2023年	行田足袋の歴史に関心を持つ人数		2,000
2024年	行田足袋の歴史に関心を持つ人数		2,000
2025年	行田足袋の歴史に関心を持つ人数		2,000

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	ウェブサイトやSNS, PR動画等による情報発信体制の整備		
概要	関係部局等の情報発信の一元管理体制を確立し、連携した情報発信を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	情報発信体制の整備	日本遺産の情報提供フォーマットを作成、文化財保護課が情報を集約し、おもてなし観光局と連携しておもてなし観光局が運営しているウェブサイトやSNS、市HPでこまめに情報を発信する。	文化財保護課・おもてなし観光局
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年	SNSでの情報発信に対するいいねの数		1,279・3,000
2021年			1,279・3,000
2022年			・3,000
2023年	SNSでの情報発信に対するいいねの数		1,300
2024年	SNSでの情報発信に対するいいねの数		1,400
2025年	SNSでの情報発信に対するいいねの数		1,500

(事業番号7-B)

事業名	日本遺産勉強会・講座等の実施		
概要	市民に対して、日本遺産としての「足袋と足袋蔵」に関する勉強会や講座を開催し、故郷としての誇り、日本遺産に対する理解と愛着を深め、街づくりへの参画意識を高揚する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産勉強会・講座等の開講	日本遺産講座（仮称）を開講し、受講者に日本遺産に対する理解と興味を深めていただく。	文化財保護課
年	事業評価指標		実績値・目標値
2020年	日本遺産ガイダンスセンターに訪れる市民の数		540・200
2021年			1,137・250
2022年			・300
2023年	日本遺産ガイダンスセンターに訪れる市民の数		1,200
2024年	日本遺産ガイダンスセンターに訪れる市民の数		1,300
2025年	日本遺産ガイダンスセンターに訪れる市民の数		1,400